

環境活動レポート

2010年度版

活動期間 2010/1/1~2010/12/31



富士化学工業株式会社

エコアクション21 認証・登録番号 0004018

(第二版：2011年3月30日作成)

目次

1. 組織の概要
2. 環境方針
3. 環境目標
4. 環境活動計画
5. 環境目標の実績
6. 環境活動計画の取組結果の評価、次年度の取組内容
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無
8. 代表者による全体の評価と見直しの結果

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

富士化学工業株式会社
代表取締役社長 鈴木 憲治

(2) 所在地

静岡県伊豆の国市中島 209

(3) 環境管理責任者・担当者の氏名と連絡先

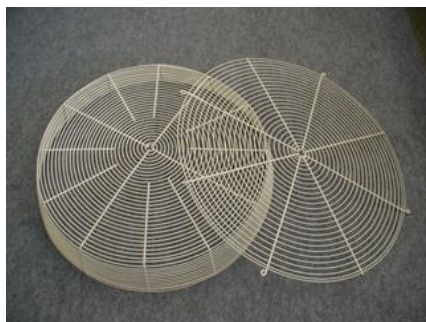
環境管理責任者 深瀬 孝一郎
担当者 総務 望月 美里

連絡先：0558-76-3009

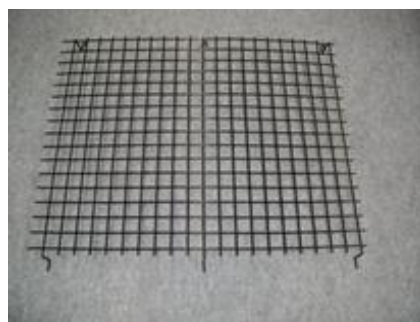
メール：info@fujikagaku.cc

(4) 事業活動の内容

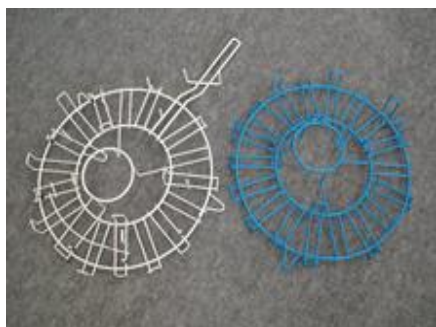
- ・エアコン部品・自動車部品等の溶接・組立事業
- ・上記部品の表面処理（PEコーティング、ステンレス電解研磨）事業
- ・医療用部品などの特殊溶接事業



エアコン用ファンガード
(PEコーティング処理)



冷凍機用フィンガード
(PEコーティング処理)



医療用部品
(PEコーティング処理)



医療用部品
(電解研磨処理)

(5) 事業の規模

	単位	2008年	2009年	2010年
生産量	t	368	226	322
売上高	百万円	351	262	313
従業員数	人(平均)	38	29	30
延べ床面積	m ²	2,525	2,525	2,525

(6) 事業の沿革

●昭和 27 年	富士化学工業所として、特殊顔料・染料の製造をはじめ、大蔵省印刷局等へ納入
●昭和 30 年	法人化。メッキ業を加え、三菱電機静岡製作所、大東製機(株)等へ製品納入
●昭和 38 年	ドイツグリースハイム社の特許に依る金属への合成樹脂粉体塗装を開始。電気冷蔵庫の庫内製品棚の樹脂コーティングなどを手がける。その後、ルームエアコン、パッケージエアコン、冷凍機のファンカバー・フィンカバーを線材加工より表面処理までの自社内一貫作業により製造
●昭和 49 年	メッキ工場を廃止。コーティング工場に資源を集約化
●平成 13 年	メッキ技術のノウハウを活かし、ステンレスの電解研磨自動化ラインを新設
●平成 19 年	コーティングラインをリプレイス

(7) 敷地概要および敷地内工場配置

◎都市計画法での用途地域指定：市街化調整区域

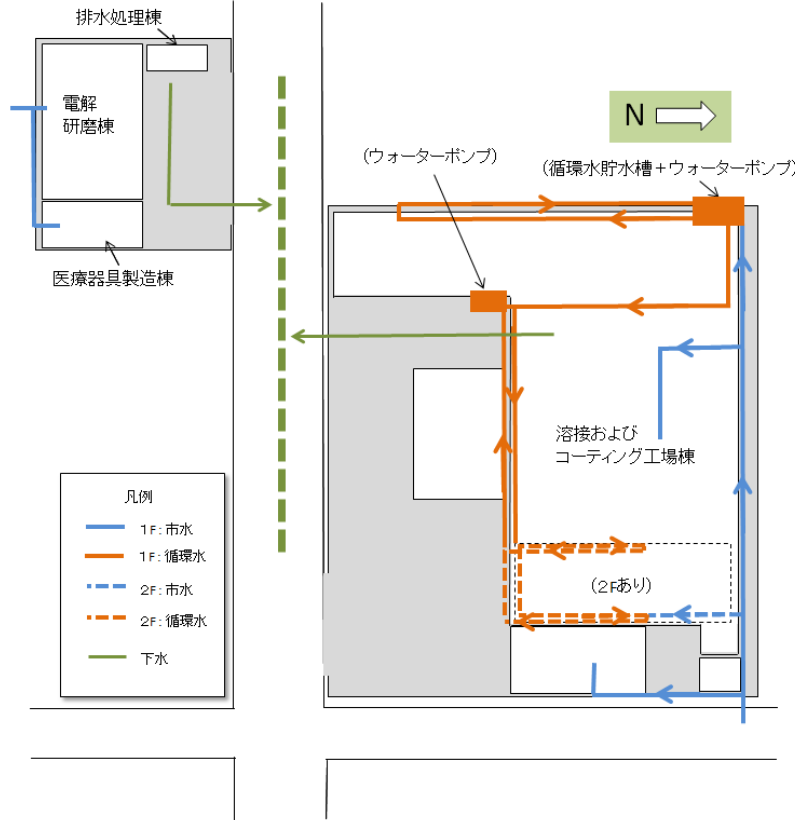
◎静岡県生活環境の保全等に関する条例での地域指定

- 騒音：第2種区域
- 振動：第1種区域の2
- 悪臭：E区域
- 水質：狩野川流域下水道
- 大気：伊豆の国市

図表 工場周辺図

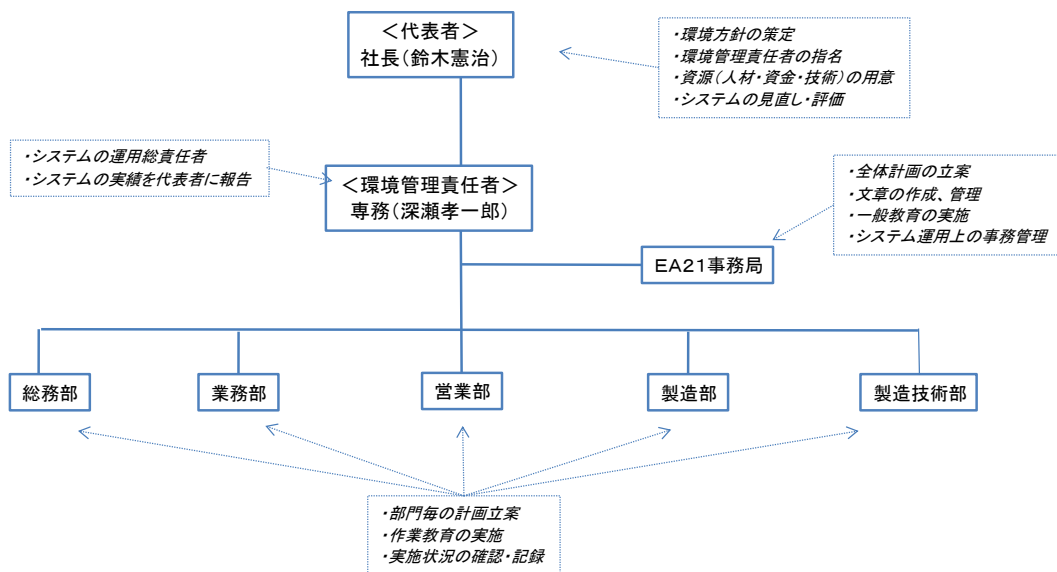


図表 敷地内工場配置図



(8) 環境活動組織

図表 環境活動組織図



2. 環境方針

<環境方針>

当社は、冷凍機・エアコン部品の製造を通して、人々の生活環境・利便性の向上に資することにより、社会に貢献し存在している会社です。一方で、これらの生活環境・利便性の向上は、エネルギーの消費を促進し、地球環境へ負荷をかけているのも事実であります。

そこで、我々社員一人一人は、環境に対する問題意識を持って行動し、地球環境の保全及び地域社会への貢献を目指すべく、以下のような環境方針を定めるとともに、その実施・運用・継続的改善を行う「環境経営システムの構築」をめざします。

1. CO₂・廃棄物・水の削減

- 生産活動により発生するCO₂の削減、廃棄物の低減化とリサイクル化の推進および節水に努めます。

2. 化学物質使用量の把握・グリーン購入の推進

- 生産活動において使用する化学物質使用量の把握およびグリーン購入の推進に努めます。

3. 法令遵守

- 国および地域で定められた環境関連法規制および当社が同意する各種協定等を遵守します。

4. 活動報告

- 環境活動レポートの公表、本社周辺の清掃活動を通して、地域社会の一員として地域社会に貢献するように努めます。

5. 社員教育・啓蒙活動

- 全社員が当社の事業活動によって生じる環境負荷を把握し、その低減方法について、検討するとともに、環境保全活動に参加し、目標を定めて行動していきます。

6. 不良削減

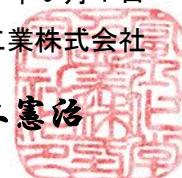
- 資源の有効利用を図るため、製品の歩留まり率の向上を図ります。

制定日：2008年11月1日

改定日：2010年9月1日

富士化学工業株式会社

代表取締役 鈴木憲浩



3. 環境目標

(1) 中期目標

2009 年度の負荷実績および環境方針に基づき、中期目標を見直した。
(2010/1/1~2010/12/31 の実績挿入済み)

図表 中期目標

制定日:2008.11.1
見直し日:2010.4.1

削減項目	中期削減目標(基準年2008年)		2009年		2010年		2011年	
			現状把握年		施策実施年		見直し・評価年	
			・年間を通したデータを収集する。 ・身の回りで出来ることを積極的に推進する		・2009年度のデータを元に詳細な検討を行う ・場合によっては、投資を伴う施策を行う		・過去2年間の施策の評価を行い、有効なものをさらに積極推進する	
CO2	基準年比2%削減	個別年度具体目標		基準年比1%削減		0.5ポイント推進		0.5ポイント推進
		排出量(※) (Kg-CO2)	205,797	154,804	75%	186,958	91%	
		電力(MJ)	2,058,373	1,713,861	83%	1,999,029	97%	
		LPG(MJ)	1,870,502	1,300,749	70%	1,646,273	88%	
廃棄物	基準年比3%削減	個別年度具体目標		基準年比2%削減		0.5ポイント推進		0.5ポイント推進
		一般廃棄物(ton)	10	3	30%	1	8%	
		産業廃棄物(ton)	14	15	107%	23	164%	
		特定廃棄管理物(ton)	0	0	-	1	-	
水	基準年比2%削減	個別年度具体目標		基準年比1%削減		0.5ポイント推進		0.5ポイント推進
		上水(m3)	1,534	1,257	82%	1,508	98%	

(※) 2008年度二酸化炭素排出係数:0.418(kg-CO2/kWh)を使用

(2) 2010 年度目標

中期目標に基づき、以下のような今年度(2010 年度)目標・活動を設定した。

目標1. CO₂排出量の低減:基準年(2008年)比1.5%

① LPG

- ・コーティング炉運用の集中化
- ・コーティング炉対寒対策の実施

② 電気

- ・コーティング炉熱漏れ対策の実施(窓改修)
- ・就業時以外の消灯の徹底
- ・就業時以外のコンプレッサー等の機械休止確認

目標2. 廃棄物の低減:基準年(2008年)比 2.5%

- ① 梱包材の削減
 - ・通い箱の使用による梱包材の使用削減
- ② 分別・リサイクル
 - ・定期的清掃活動(不要物、リサイクル物、必要物の選別)
 - ・コピー紙裏面利用の徹底
- ③ 支給物の管理
 - ・ものを大切に使うための社員教育・啓蒙活動

目標3. 水資源使用量の低減:基準年(2008年)比1.5%

- ① 現状把握・分析
 - ・配管の漏水チェック
- ② 将来検討
 - ・節水用電磁弁の導入
- ③ 啓蒙活動
 - ・表示を行い節水推進

目標4. 化学物質使用量の把握

- ①化学物質使用量の記録の徹底
 - ・電解研磨排水処理における使用量を記録
- ②将来検討
 - ・その他の部署について記録方法を検討

目標5. グリーン購入の推進

- ①環境に配慮した物品等の購入・使用
 - ・事務用品等につき実施

目標6. 自主目標

- ① 不良率の改善にむけた活動
 - ・製造部内の不良枚数の把握
 - ・製造部内の各部署のセッティング時に生じるロス把握
- ② QC活動および改善提案活動
 - ・生産改善提案の実施(生産効率および環境を含めた提案活動)
 - ・技術伝承活動(技術伝承による生産効率の改善)

4. 環境活動計画

環境活動の内容と推進スケジュール

作成日：2010.4.1
 改正日：2010.9.1

環境活動		推進部署	2010年度											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
0. 全体環境活動														
①全体活動	-EA21ファミリーミーティング	全部門												
	-地区清掃	全部門												
1. Co2排出量の低減：2008年比1.5%														
①LPG	-コーティング炉運用の集中・効率化	製造部												
	-コーティング炉対策の実施	製造部												
②電気	-コーティング炉熱洩れ対策の実施(窓改修)	製造部												
	-就業時以外の消灯の徹底	全部門												
	-就業時以外のコンプレッサー等の機械休止確認	製造部												
2. 廃棄物の低減：2008年比2.5%														
①梱包材の削減	-通い箱の使用による梱包材の使用削減	製造部												
②分別・リサイクル	-定期的清掃活動	全部門												
	-コピー紙裏面利用の徹底	総務・業務部												
③支給物の管理	-社員教育・啓蒙活動	全部門												
3. 水資源使用量の低減：2008年比1.5%														
①現状把握・分析	-配管の漏水チェック	製造部												
	-各機の水使用量の把握	製造部												
②将来検討	-節水用電磁弁の導入検討	製造技術部												
③啓蒙活動	-表示を行い節水推進	全部門												
4. 化学物質使用量の把握														
①化学物質使用量の記録の徹底	-電解研磨排水処理における使用量を記録	製造部												
②将来検討	-その他部署について記録方法を検討	製造部												
5. グリーン購入の推進														
①環境に配慮した物品等の購入・使用	-事務用品等につき実施	総務・業務部												
6. 自主目標の達成														
①不良率の改善に向けた活動	-製造部内の不良枚数の把握	製造部												
	-製造部内のセッティングロスの把握	製造部												
②QC活動および改善提案	-生産改善提案の実施	製造部・製造技術部												
	-技術伝承活動	製造部												

5. 環境目標の実績

(1) 過去3年間の環境負荷実績と2010年度実績値

下表は、環境目標の設定にあたり、2007年度から2009年度の過去3年間の負荷実績と2010年度の実績値についてまとめたものである。

図表 過去3年間(2007～2009年度)の負荷実績と2010年度実績

		単位	2007年	2008年	2009年	2010年		
I n p u t	①エネルギー使用量	購入電力	MJ	1,933,364	2,058,373	1,713,861	1,999,029	
		化石燃料	MJ	1,691,287	1,870,502	1,300,749	1,646,273	
		新エネルギー	MJ	0	0	0	0	
		その他	MJ	0	0	0	0	
	②物質使用量	資源投入量	t	300	408	247	363	
		循環資源投入量	t	0	0	0	0	
	③水使用量	上水	m3	2,085	1,534	1,257	1,508	
		工業用水	m3	0	0	0	0	
		地下水	m3	0	0	0	0	
	④化学物質使用量	PRTR対象	無水クロム酸	kg	0	0	0	0
リン酸(※1)			kg	0	0	0	525	
PRTR対象外		苛性ソーダ	kg	0	0	0	201	
		硫酸第一鉄	kg	0	0	0	14	
		消石灰	kg	0	0	0	20	
		ネオクリナー(※1)	kg	0	0	0	60	
		メタノール(※1)	kg	0	0	0	28	
O u t p u t	⑤温室効果ガス排出量	二酸化炭素(※2)	Kg-CO2	189,788	205,797	154,804	186,958	
	⑥総製品生産量または総製品販売量	製品生産量	t	282	368	235	322	
		環境負荷低減に資する製品	t	0	0	0	0	
		容器包装使用量	t	15	18	7	20	
	⑦廃棄物等総排出量	一般廃棄物	循環資源量	t	2.5	9.1	2.5	0.0
			中間処理量	t	1.3	1.3	0.9	0.8
			最終処分量	t	0	0	0	0
		産業廃棄物	循環資源量	t	0	12.3	12.2	21.4
			最終処分量	t	5.4	2.1	2.8	1.7
	⑧総排水量	公共用水域	m3	0	0	0	0	
下水道		m3	1,759	1,534	1,257	1,508		
BOD		g	108	47	75	101		

(※1) 購入量より算出

(※2) 2008年度二酸化炭素排出係数:0.418(kg-CO2/kWh)を使用

6. 環境活動計画の取組結果の評価、次年度の取組内容

(1) 2010年度環境活動内容

① EA21全体に係る具体的活動実績

・日々の啓蒙活動の重要性の観点から、外部講師を招聘し、エコアクション21活動を含む弊社生産の効率化・安全化に係る諸事項について、ファミリーミーティングを行った。ミーティング内において、個人目標である「2010年私の思い」を各自提出した。

(2010/1/22、1/29、2/5、2/12)

・区内清掃において、会社周りの除草、側溝の清掃を行った。(2010/4/16)



<EA21 ファミリーミーティング活動 1>



<EA21 ファミリーミーティング活動 2>
(個人目標「私の思い 2010」)



<区内清掃における側溝の清掃>

② CO₂排出量の削減に関する具体的活動実績

・引き続きコーティング炉の対寒対策を実施し、夏季も外さずに燃料の削減に努めた。
(通年)

・コーティング炉の運用実績を引き続き事務所で管理し、運転時間、前炉処理温度、後炉処理温度などの適正運用について把握を行った。(通年)

・引き続き各部署の火元責任者、消灯(戸締まり)管理責任者の管理のもと、就業時間以外の電気・電灯の管理を行った。(通年)

- ・工場北側の窓枠工事をを行い、耐寒対策を実施した。(2010年9月)
- ・会社北側の外壁を交換し、張り替えた。(2010年11月)



<コーティング炉耐寒対策実施中>



<耐寒対策後の工場北側外壁・窓枠>



<就業時間以外の消灯状況>

③ 廃棄物量の削減に関する具体的活動実績

- ・引き続き、協力会社様との部品のやりとりには、所定のプラスチック製通い箱に統一し、極力、段ボールなどの消耗梱包材料を使わないよう努力した。(通年)
- ・自社焼却の可燃ゴミについて、事務所に報告させ、管理を徹底した。(通年)
- ・事務所においては、引き続きコピー用紙の再利用(裏紙利用)につとめた。(通年)
- ・支給物について、事務所で管理を行い、無駄に使わぬよう徹底した。(通年)



<コピー用紙裏面利用の徹底>



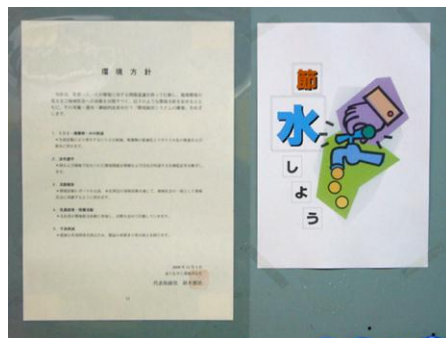
<通い箱による部品のやりとり>



＜支給物管理の徹底＞

④ 水資源量の削減に関する具体的活動実績

- ・500KVA 自動溶接機の節水用電磁弁を交換した。(2010年4月)
- ・配水管からの漏水をチェックした。(2010年4月)
- ・引き続き、節水ポスターなどで節水への啓蒙・喚起を行った。(通年)
- ・猛暑の影響により、2F 到達時に循環水の冷却機能が損なわれた。そのため、2F 自動溶接機の冷却に市水を利用した。(2010年7～9月)



＜環境・節水掲示ポスター＞



＜配管の漏水チェック＞

⑤ 化学物質使用量の把握に関する具体的活動実績

- ・中間審査にて指摘があったため、電解研磨排水処理における溶液投入量を記録し、それに基づき化学物質使用量の把握を開始した。(2010年9月～)

⑥ グリーン購入推進に関する具体的活動実績

- ・事務用品等について環境ラベル認定等製品を積極的に購入した。(通年)
- ・社用車をハイブリッドカー(インサイト)に変更した。(2010年1月)

⑦ 自主目標(不良品削減)に関する具体的活動実績

- ・引き続き、各部署から出る不良枚数についてチェックするとともに、毎月末その不良を展示し、原因・対策等について発表を行った。(通年・毎月末)

- ・材料切断工程の機械セッティング時に生じるロスを削減するため、引き続きロス数量の把握を行った。(通年)
- ・不良品削減について個々の意識改革を呼びかける 2010 年度スローガンを掲示し、従業員へ意識改革を呼びかけた。(通年)
- ・作業の効率化について毎月従業員より提案を受けつけ、その改善活動を行った。また、提案数が最も多かった個人への報償制度も実施した。(通年)
- ・ベテラン職員から中堅・若手職員への技術伝承活動を行った。(通年)



<社内不良品説明会>



<2010 年度スローガンの掲示>

⑧ 生産効率向上のための機械新設等

- ・既存のロータリー溶接機の改造を行った。(2010 年 3 月)
- ・コーティング設備循環ファン工事をを行った。(2010 年 5 月)
- ・ロータリースポットを新設した。(2010 年 6 月)
- ・溶接機のトランス・制御盤の交換、及びプレスモーターの交換を行った。(2010 年 11 月、12 月)

⑨ その他活動実績

- ・工場西側の外装のカバー工事をを行い、波型スレートの劣化を止めるとともに、外観美化を図った。(2010 年 1 月)
- ・テント倉庫を旧電解研磨作業場跡地へと移設した。(2010 年 1 月)
- ・フォークリフト、EV リフトの自主点検を行った。(2010 年 2 月)
- ・不要となった 2tトラックを廃車にした。(2010 年 2 月)
- ・近隣住民からの要望により、切れている水銀灯を交換した。防犯上、重要とのことであった。(2010 年 2 月)
- ・電解研磨の配管修理を行った。(2010 年 4 月)
- ・キューピクル上屋根の雨漏り工事をを行った。(2010 年 5 月)
- ・老朽化したパレティーナを廃棄し、新品へと交換した。(2010 年 12 月)

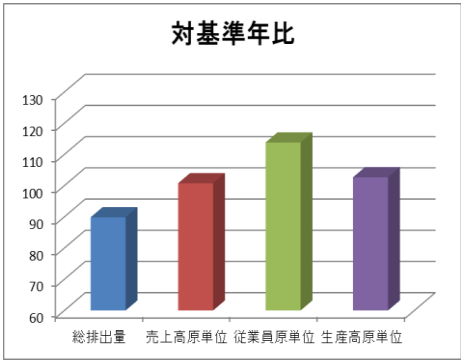
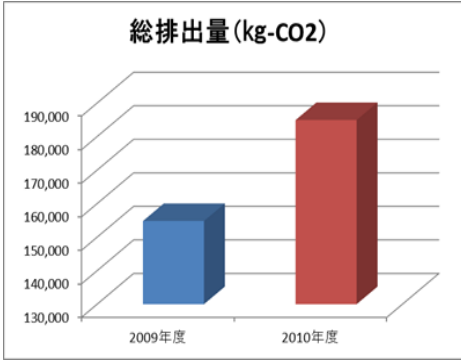


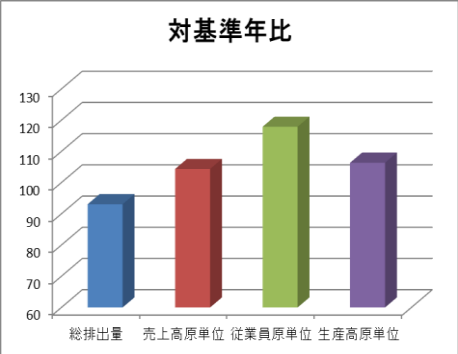
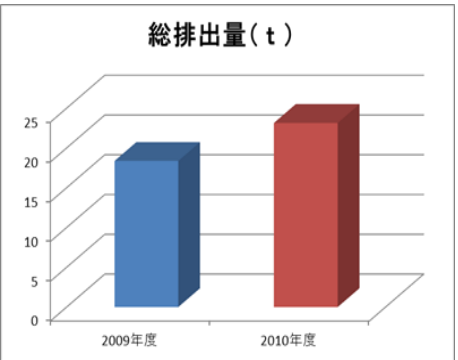
<工場西側外壁の劣化防止・美化>

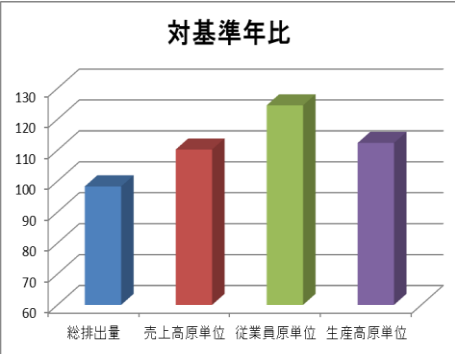
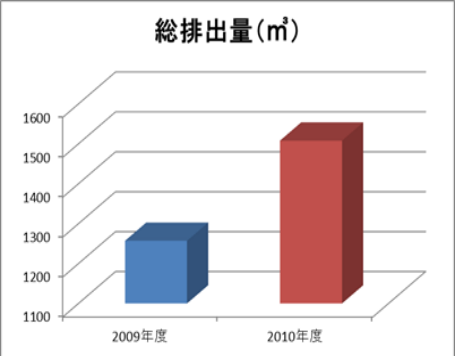


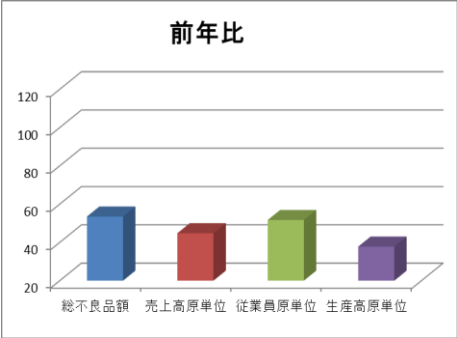
<交換した新しいパレティーナ>

(2) 取組結果の評価

取組項目	年度目標	運用期間の取組結果 (2010年1月～2010年12月)	評価																
<p><CO₂ 排出量の低減></p> <p>① LPG ② 電力</p>	<p>基準年比 1.5%削減</p>	<p style="text-align: center;">対基準年比</p>  <table border="1"> <caption>対基準年比</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>対基準年比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総排出量</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>売上高原単位</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>従業員原単位</td> <td>114</td> </tr> <tr> <td>生産高原単位</td> <td>103</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">総排出量(kg-CO₂)</p>  <table border="1"> <caption>総排出量(kg-CO₂)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>総排出量 (kg-CO₂)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2009年度</td> <td>159,985</td> </tr> <tr> <td>2010年度</td> <td>190,100</td> </tr> </tbody> </table>	項目	対基準年比 (%)	総排出量	90	売上高原単位	101	従業員原単位	114	生産高原単位	103	年度	総排出量 (kg-CO ₂)	2009年度	159,985	2010年度	190,100	<p>・基準年に比べて総量は90%に減少した。売上高原単位 101%、従業員原単位 114%、生産高原単位 103%となり、原単位では目標に達成しなかった。</p> <p>・総排出量は、前年と比べ 30,115 kg増加した。</p>
項目	対基準年比 (%)																		
総排出量	90																		
売上高原単位	101																		
従業員原単位	114																		
生産高原単位	103																		
年度	総排出量 (kg-CO ₂)																		
2009年度	159,985																		
2010年度	190,100																		

取組項目	年度 目標	運用期間の取組結果 (2010年1月～2010年12月)	評価
<p data-bbox="225 421 459 454"><廃棄物の低減></p> <p data-bbox="225 517 421 551">① 梱包材削減</p> <p data-bbox="225 566 475 600">② 分別・リサイクル</p> <p data-bbox="225 616 448 649">③ 支給物の管理</p>	<p data-bbox="507 472 576 551">基準 年比</p> <p data-bbox="507 566 555 600">2.5%</p> <p data-bbox="507 616 560 649">削減</p>	<p data-bbox="767 488 895 521">対基準年比</p>  <p data-bbox="746 913 895 947">総排出量(t)</p> 	<p data-bbox="1093 421 1366 741">・基準年に比べて総量は93%に減少した。売上高原単位104%、従業員原単位118%、生産高原単位106%となり、原単位では目標に達成しなかった。</p> <p data-bbox="1093 947 1366 1025">・総排出量は、前年と比べ、4.8t増加した。</p>

取組項目	年度目標	運用期間の取組結果 (2010年1月～2010年12月)	評価
<p data-bbox="225 421 480 499"><水資源使用量の低減></p> <p data-bbox="225 562 392 689">① 現状把握 ② 将来検討 ③ 啓蒙活動</p>	<p data-bbox="507 472 574 640">基準 年比 1.5% 削減</p>	<p data-bbox="767 488 892 517">対基準年比</p>  <p data-bbox="754 913 904 943">総排出量(m³)</p> 	<p data-bbox="1091 421 1364 734">・基準年に比べて総量は98%に減少した。売上高原単位 110%、従業員原単位 125%、生産高原単位 112%となり、原単位では目標に達成しなかった。</p> <p data-bbox="1091 947 1364 1070">・総排出量は、前年と比べ 251 m³ 増加した。</p>

取組項目	年度 目標	運用期間の取組結果 (2010年1月～2010年12月)	評価										
<p><自主目標></p> <p>① 不良率の改善に向けた活動</p> <p>② QC活動および改善提案活動</p>	—	<p style="text-align: center;">前年比</p>  <table border="1" data-bbox="603 481 1061 817"> <caption>前年比 (前年を100%として)</caption> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>前年比 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総不良品額</td> <td>53%</td> </tr> <tr> <td>売上高原単位</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>従業員原単位</td> <td>52%</td> </tr> <tr> <td>生産高原単位</td> <td>38%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・不良製品の数値(金額ベース)把握。報告会を実施。 ・線材切断部門における、セッティングロスを把握中 ・改善提案活動を実施 	項目	前年比 (%)	総不良品額	53%	売上高原単位	45%	従業員原単位	52%	生産高原単位	38%	<p>不良品金額について前年に比べて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総量 53%、 ・売上高原単位 45% ・従業員原単位 52% ・生産高原単位 38% <p>といずれも減少した。部門別の不良数の数評価、提案数の最も多い個人への報奨制度などを導入した結果、一定の成果がみられた。引き続き、現状の維持と更なる不良削減を目指すよう、社員への啓蒙活動・教育を実施する予定である。</p>
項目	前年比 (%)												
総不良品額	53%												
売上高原単位	45%												
従業員原単位	52%												
生産高原単位	38%												

(3) 次年度の取り組み内容

2010年度の取組結果を踏まえ、2011年度では現行の活動に加え、下記の活動を実施しようと考えている。

①全体環境活動

- ・啓蒙活動の一環として、月次環境活動レポートを公表・掲示する。

②CO₂排出量の低減

- ・既存設備の点検・更新を行う。

③廃棄物の低減

- ・2010年度の内容を継続・推進する。

④水資源使用量の低減

- ・2F自動溶接機に専用の冷却水循環ポンプを導入する。

⑤化学物質使用量の把握

- ・電解研磨排水処理およびその他部署にて使用量の記録を徹底する。

⑥グリーン購入の推進

- ・適用範囲を拡大し全部門において実施する。
- ・グリーン購入基準および方針を作成する。
- ・購入基準に基づき、物品リストを作成し購入する。

⑦自主目標

- ・生産効率の向上を図るため、新しい生産設備を導入する。

(4) 事故及び緊急事態の想定結果およびその対応策

2010年度は、事故・緊急事態に備えての訓練を行わなかった。東海地震を想定し、次年度からは訓練および対応策を検討すべく時間を設けることが必要と考える。これを課題とし、今後、明確な実施計画を立てることとする。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況

各種法令遵守については問題なし。

2010.12.31現在

規制概要	規制詳細	該当施設・設備など	遵法評価
廃棄物処理法・静岡県産業廃棄物の適正処理に関する条例関連			
事業者の責務(県条例)	①産業廃棄物管理責任者の設置 ②処理委託先の実施確認(1回/年以上、5年間保管) ③不適正処理が行われ又は行われる恐れがある場合は知事に報告。		2010.04.01 遵法状況確認済み →確認者: 環境管理責任者
産業廃棄物保管掲示内容	保管場所に60cm×60cm以上の掲示板の設置 ①単純保管、積替え保管、処分保管か ②廃棄物の種類 ③管理者の名称と連絡先 ④最大積み上げ高さ ⑤保管可能量	・電解研磨廃液処理の汚泥 ・その他一般産業廃棄物	2010.04.01 遵法状況確認済み →確認者: 環境管理責任者
産業廃棄物委託基準	①委託先の許可確認 ②委託契約の締結 ③契約書5年間保管		2010.04.01契約内容確認済み →確認者: 環境管理責任者
産業廃棄物管理票	①マニフェストの交付 ②回収・照合(発行後、B2・D票 90日、E票 180日以内) ③5年間保管 ④交付状況報告(前年度分、6月30日まで)		①～③マニフェスト確認 ④2010.07.28報告 →2010.12.01確認済確認者: 環境管理責任者
特別管理産業廃棄物(PCB入り高圧コンデンサー保管)	①管理責任者の設置 ②保管の基準	PCB含有高圧コンデンサー	管理責任者設置済。保管状況確認済。 →2010.12.01届出書確認済み 確認者: 環境管理責任者
騒音規制法・静岡県生活環境の保全に関する条例			
特定施設の届出	①設置・変更工事開始の30日前までに市町村長へ届出 ②変更・廃止の場合は、30以内に市町村長へ届出	・液圧プレス4台 ・機械式プレス2台 ・ワイヤーフォーミングマシン1台 ・切断砥石2台 ・直線切断機4台 ・旋盤1台 ・フライス盤1台 ・ボール盤1台 ・コンプレッサー3台	2009.0507届出済み →2010.04.01届出内容確認済 確認者: 環境管理責任者
規制基準	第2種区域(昼間:55、朝・夕:50、夜間:45デシベル)		

振動規制法・静岡県生活環境の保全に関する条例			
特定施設の届出	①設置・変更工事開始の30日前までに市町村長へ届出 ②変更・廃止の場合は、30以内に市町村長へ届出	・液圧プレス4台 ・機械式プレス2台 ・ワイヤーフォーミングマシン1台 ・切断砥石2台 ・直線切断機4台 ・コンプレッサー3台	2009.0507届出済み →2010.04.01届出内容確認済 確認者： 環境管理責任者
規制基準	第1種区域の2(昼間:65、夜間:55デシベル)		
労働安全衛生法			
MSDSの周知	①作業場所への掲示又は備え付け	・リン酸 ・硫酸 ・硝酸 ・苛性ソーダ ・中和防錆剤 ・塩酸 ・硫酸第一鉄 ・消石灰 ・無水クロム酸	各作業場所へと保管 →2010.4.1確認済 確認者： 環境管理責任者
該当施設の有無の確認	①主任者の設置	・コーティング炉が乾燥設備に該当	受講資格該当者が2009.07に受講済み。 →有資格者を主任者として選任済み。
消防法			
該当施設等の届出	①所轄消防所長に届出	・LPG貯蔵施設(消防活動阻害物質) ・粉体塗料(指定可燃物) ・無水クロム酸、メタノール、硝酸(危険物)	<LPG> 2007.10.02届出済み <その他> 指定数量未満のため届出の必要なし →遵法状況、届出書確認済 確認者： 環境管理責任者
下水道法、伊豆の国市下水道条例			
特定施設の届出	①使用開始の時期を下水道管理者に届出	・電解研磨排水処理施設	2000.11.01届出済み →2010.04.01届出書確認済 確認者： 環境管理責任者
汚染状況の測定/測定記録の保存	①温度・pH、BOD、その他の項目 ②測定結果の記録は、5年間保存		測定日、測定結果及び5年分の計量証明書を確認。 →2010.12.01確認済 確認者： 環境管理責任者
PCB 廃棄物特措法			
事業者等の義務	①保管量の届け出(知事) ②期間内の処分(2016.7.15 までに処分)	・PCB含有高圧コンデンサー	2010.05.25保管および処分状況届出。処分待ち。 →2010.12.01届出書確認済 確認者： 環境管理責任者

(2) 訴訟などの有無

関係機関からの指摘、近隣住民をはじめとする利害関係者からの訴訟等は、過去3年間なし。

8. 代表者による全体の評価と見直しの結果

(1) 総合評価

前年度に引き続き、全社員とも環境・エコロジーを意識し、環境活動に積極的に取り組み・参加した。

はじめに、CO₂排出量、廃棄物、水資源の使用量をみると、総量では基準年をすべて下回っており、設定した目標を達成したといえる。しかしながら、前年の総量と比較してみると、3項目すべてにおいて増加していることが分かる。

また、各原単位では、上記3項目においてすべて基準年を上回っており、残念ながら目標を達成することはできなかった。中でも、従業員原単位については他の項目よりも10%程度増加している。これについては、2010年度の従業員数が基準年より2割ほど減少していることから、従業員数の変動が原因の一つであると推測される。

今回よりPRTTR制度に該当する化学物質はもちろんのこと、その他該当しない化学物質についても、使用量の把握を行った。2010年度については、年度途中からの試みのため、購入量により算出を行った。次年度からは、従業員および周辺地域の安全のため、実際の使用量についても把握するよう徹底していこうと考えている。

次に不良削減などの自主目標について見てみると、前年に比べ売上、生産量が増加した中、不良品の総金額は53%と減少している。また、各原単位についても、同様に前年値より大幅に減少しており、目標を達成することができた。前年度に引き続き、不良品の総数を製品単価で換算し、その金額を発表することなどで、社員にとって容易に想像できる判断基準で「不良を出さないような心構え」を説くことができたと考えている。

2010年度の取り組みテーマについては、すべての目標を達成することはできなかったが、改めて、エコアクションをテーマとした「ファミリーミーティング活動」による更なる個々の意識改善が必要であることを認識させられる結果となった。

(2) 今後の展望

新年度の目標・活動については、2009年当初にたてた目標値を変更せず、また、その活動も基本的には同様の活動を考えている。これらの活動をさらに細かいレベルで徹底し、社員教育・啓蒙活動などを通して、一層の環境負荷の低減に努めたい。加えて、2010年度に行えなかった事故・緊急事態を想定した訓練を行い、対応策を検討することとする。

CO₂排出量、廃棄物、水資源の使用量において、各原単位で目標を達成する

ことができなかつた。総量はもちろんのこと、各原単位を下げるのが、新年度の課題であると考えている。

また、猛暑の影響により、現行の循環ポンプでは、2F に到達する前に水温が上昇し、冷却機能が著しく損なわれてしまった。そのため、2010 年度では急遽市水を導入し対応した。次年度以降の対策として、2F に独立した循環システムが必要と思われる。

2010 年度途中より電解研磨において使用する薬品3種類の使用量把握を行った。前項にて述べたとおり、その他の化学薬品についても、今後、使用量を把握・管理していくこととする。また、新しく環境に配慮した事業を進めていく予定である。新事業を行うことで、さらに社会に貢献できるよう努めていこうと考えている。

また、CO₂ 排出量、廃棄物、水資源使用量の低減については、いずれ数値が頭打ちになっていくであろうことが容易に想像できる。これを踏まえ、中期目標の最終年として、過去 2 年間の施策評価を行い、有効なものをさらに発展・推進していき、今後どのように環境負荷を低減するかをテーマとし、2012 年度以降の目標の検討、新たな取り組みに対する計画を進めていきたい。

2011 年 3 月 30 日

富士化学工業株式会社

代表取締役 鈴木憲浩



以上